

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年9月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1572300141
法人名	医療法人 魚野会
事業所名	グループホームせせらぎ
所在地	新潟県魚沼市原虫野433番地3 (電話) 025 - 792 - 1201

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21 年 6 月 4 日

【情報提供票より】(21 年 5 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 3人、非常勤 7人、常勤換算 7.35人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,730 円	その他の経費(月額)	1,800 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 380 円	
	夕食 350 円	おやつ 70 円	
	または1日あたり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (21 年 5 月現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.3 歳	最低 58 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ほんだ病院 藤本歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、住宅地から少し離れた田園地帯に位置している。母体法人が運営する協力病院や老人保健施設、在宅福祉サービス事業所が併設されており、地域における医療・介護の拠点となっている。認知症の専門医である協力病院と訪問看護ステーションにより、24時間の医療連携体制が整えられている。ホーム利用者は、併設の老人保健施設や病院の利用を経て入居される方が多く、入居時の情報交換など併設施設や病院との連携が密に図られている。
ホーム内はゆったりとした造りであり、窓から田園風景を望める食堂、掘りゴタツのある和室など利用者が思い思いに過ごせる空間がある。居室スペースも広く、各居室にはトイレと洗面台が設置され、プライバシーを守られながら落ち着いて生活できる環境である。ホームの外では畑作りも行っており、利用者が生き生きと畑作業をしている様子が伺えた。また、近くの地域福祉センターへも積極的に出かけ、ダンスやカラオケなどのサークル活動に参加して地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえ、「マニュアルの整備」から取り組んだ。管理者を中心に、母体法人のマニュアルをベースとして、ホーム独自のケアの基本マニュアルを作成した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、法人事務長と管理者・看護課長・職員とで評価項目を読み合わせながら実施した。職員自身が自らのケアを振り返り、利用者の立場に立った視点の重要性を再確認することができた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に1回定期的開催されている。利用者・家族・民生委員・市の福祉課職員が参加し、利用者の生活の様子が報告されている。会議では、出席者により理解を深めてもらえるよう、ホームの様子を写真で紹介するなど工夫している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会時には利用者の日頃の様子を伝えるなど職員からコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気をつくる中で意見や要望を引き出せるよう努めている。利用者の状態の変化や受診の結果などはその都度家族に電話で状況報告を行っている。また、管理者から、利用者の様子を記した手紙を毎月家族へ送付している。利用者の家族で構成されている家族会が結成され、家族との雑談の中で意見をくみ上げている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際には地域の方と挨拶を交わしたり、農家の方から苗を頂き、お礼に果物をお返しするなど、日常的なつきあいが行なわれている。また、近隣にある地域福祉センターにも積極的に訪問し、踊りやカラオケ等の活動に参加しながら地域の方と交流している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念に基づいてホーム職員で検討を行い、独自の理念を掲げている。利用者のニーズを踏まえて、地域との交流を図りながら地域の一員としての当たり前の生活を支援すること、利用者にとっての「第2の家庭」であることを目指した理念であり、方言を織り交ぜた親しみやすい言葉で表現されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が、月1回理念を確認する機会を持っている。ホームの理念に基づいて利用者へのケア提供を行なっているか振り返り、理念の共有と実践に努めている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年2回発行される法人広報誌『だんだんどうも』にホームのページが設けられており、そこでホームの理念や活動の様子を伝えている。利用者や家族、地域の福祉センター等に配布している。その他、ホーム独自の広報誌を作成して家族に配布しており、理念やホームが大切にしていることが分かりやすい記事となって掲載されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際には地域の方と挨拶を交わしたり、農家の方から苗を頂き、お礼に果物をお返しするなど、日常的なつきあいが行なわれている。また、近隣にある地域福祉センターにも積極的に訪問し、踊りやカラオケ等の行事に参加しながら地域の方と交流している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果に基づいてできることから改善に取り組んだ。今回の自己評価は、法人事務長と管理者・看護課長・職員とで評価項目を読み合わせながら実施した。職員自身が自らのケアを振り返り、利用者の立場に立った視点の重要性を再確認することができた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回定期的に開催されている。利用者・家族・民生委員・市の福祉課職員が参加し、利用者の生活の様子が報告されている。会議では、出席者により理解を深めてもらえるよう、ホームの様子を写真で紹介するなど工夫している。		運営推進会議の資料と会議録はきちんと作成されている。今後は、ホームの状況や活動を知ってもらったり、運営への意見をもらうきっかけとなるよう、参加者以外の家族や来訪者も会議録を閲覧できるようにすることも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	魚沼地域では3ヶ月に1回、地域密着型サービス事業所による合同ケア会議が開催されており、行政担当者も参加して、行政説明や困難事例の検討等が行なわれている。運営に関する質問を行ったり、アドバイスをもらうなどしながら、市町村と連携している。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待についての外部研修に参加している。研修に参加した職員は会議やミーティングの場で他の職員に伝達講習を行い、全員で理解を深めている。管理者も、日頃から職員へ虐待防止の徹底を伝えたり、利用者の生活の様子に注意を払い、事業所での虐待が見過されることのないよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の日頃の様子を伝えている。利用者の状態の変化や受診の結果などはその都度家族に電話で状況報告を行っている。また、管理者から、利用者の様子を記した手紙を毎月家族へ送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来る家族には、職員が直接本人の状況報告を行なうなど、日頃から話しやすい雰囲気を作って家族から意見を引き出すよう取り組んでいる。また、利用者家族による「家族会」が結成されており、そこでの話し合いなどからも意見を得るよう努めている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の情報交換や会議の場などで、ホームの運営やケアについての職員の意見を聞いている。管理者と職員とがホームの課題を共有し、どのように対応すればよいかを共に考えながら運営が行なわれている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表者、管理者は、職員の異動が利用者にとって好ましいことではないと認識している。職員がホームに長く勤務することで利用者との馴染みの関係を維持できるよう、異動を最小限にとどめている。		
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	法人のマニュアルをベースとしながら、管理者を中心としてホーム独自のケアの基本マニュアルが作成された。法人としては年1回マニュアルの見直しを行なっているが、ホーム独自のマニュアルについては、作成されたばかりであり、見直しを行なう仕組みがまだ確立していない。		今後、各種マニュアルの作成や見直しには管理者だけでなく現場職員も参画する仕組みをつくることで、ホームの実情に即したマニュアルの整備や、マニュアルを活用して日々のケアを振り返るなど、さらなる取り組みにつながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、外部研修にも職員が順番に参加できるようにし、職員を育成している。研修に参加した職員は、日々のミーティングと会議の際に他の職員へ内容を伝えており、ホーム全体で共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼地域では3ヶ月に1回、地域密着型サービス事業所による合同ケア会議が開催されている。事業所の管理者が出席し、悩みや疑問点の話し合いや情報交換など、ケア向上に資するような交流が行なわれている。それ以外にも、同一地域のグループホーム間で、利用者や職員との相互交流が行なわれている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が互いに悩みを話したり、管理者も職員の話に傾聴して同じ目線で日頃の業務に携わるなどしながら課題の共有・解決が図られており、職員自身も、管理者にも同僚にも話しやすい環境であると認識している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	少しでも馴染みの関係を構築できるよう、ホーム入居前には本人と家族とにホームを訪問してもらって説明を行っている。その際には、他利用者と過ごしてもらったり、職員と話をするなどして安心できる雰囲気づくりをし、本人がスムーズにホームに馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活での利用者との関わりの中で、職員が利用者から畑仕事などを教えてもらったり、励ましてもらったりすることを通じ、共に生活を営む者同士という関係を大切にしている。		
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を家族に随時報告して情報を共有し、本人への支援の方向性をともに検討している。例えば帰宅願望が見られる場合などに、職員と家族と一緒に本人の様子を確認してどのように関わっていけばよいのかを考え、協働して本人を支えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で、利用者の思いや意向を確認しながら対応することを心がけている。言葉だけでなく表情やしぐさからも把握するよう努めている。しかし、本人の思いや意向が記載されている記録が少ない。		職員間でより一層の共有化ができるよう、ホーム入居時の情報や、ホームでの日頃の生活から得られる情報等を記録に残していくことが望まれる。現在のアセスメント様式だけでなく、センター方式を部分的に活用していくことも有効ではないか。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人内には病院や老人保健施設、在宅介護支援センター等複数の事業所があり、それらの利用を経て入居した方も多い。そのため、入居時には、他事業所での面談記録等を活用するなど、法人内で連携を図りながら情報収集を行なっている。		ホーム独自の情報収集の記録は確認できなかった。他事業所からの情報は十分得られているが、グループホームとしての支援を行なっていくという視点でも情報収集することで、利用者の生活にさらに活用できると考えられる。また、入居後の日々の関わりの中で得られる情報も記録として積み重ね、職員間でより一層の共有を図ることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者の個人記録の情報や職員間で申し送られる情報を基本としながら、利用者本人のニーズ、家族の要望も踏まえて介護計画を作成している。		ケア提供を行なった時の利用者の様子や反応など、介護計画に基づいた視点でも記録を行なうことで、より良い支援への気づきや介護計画作成への活用につながると考えられる。記録へのさらなる工夫を期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎のモニタリングと、6ヶ月毎の見直しが行われている。利用者に急な状態変化が生じた場合は、本人の要望を確認するとともに、家族への説明や要望の聞き取りを行い、本人の現状に即した介護計画へと見直しされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけの床屋に継続して通えるよう支援したり、洋服の買い物や、ドライブ、温泉への外出など、利用者の要望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する母体法人の病院のほか、本人や家族の希望に応じて近隣の総合病院への受診も支援している。外部の病院への受診の際は、職員と主治医とで書面にて情報交換を行ない、適切な医療サービスが継続されるよう支援している。また、同法人の訪問看護ステーションとも連携して医療面の支援を行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応したケアについてはホームとしても前向きに取り組むたいと考えている。看取りの指針も作成されているが、利用者が重度化や終末期に近い状態となった時に説明している状況であり、その他の利用者や家族とは方針が共有されていない。		重度化や終末期の支援は、本人と家族にとって関心の深いことである。本人・家族の不安を軽減するとともに、支援の方向性を共有しながらチームとして本人を支えていくため、入居時などの早い段階のほか、必要に応じて随時話し合っていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけや対応は利用者の尊厳や誇りを損ねるものではなく、排泄等の場面においても配慮がなされている。個人情報の保護については法人全体で徹底に努め、会議等の機会にも個人情報保護の重要性を職員に説明し、理解を深めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況を踏まえながら、自由に過ごしてもらえるようにしている。希望に応じて散歩や買い物などの外出を支援したり、畑仕事など今までの暮らしの中で継続してきたことをホームでも行なえるようにするなど、一人ひとりの暮らし方を大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、利用者と職員が協力しながら行なっている。食事も、和やかで楽しい雰囲気の中で一緒に食べており、職員の介助もさりげなく行なわれている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握しており、個々に応じた支援をしている。定期的なトイレ誘導を行なうことで、オムツを使用しなくなった方もおられる。各居室にトイレがあり、プライバシーを保ちながら気持ちよく排泄できる環境が整えられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日2ヶ所ある浴室を使用して、一人ひとりがゆっくりと入浴できるようにしている。本人の希望や状況に応じて、概ね2日に1回のペースで午後に入浴を支援しているが、午前にシャワーを使用するなど可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敷地内の畑で野菜を作り、収穫して調理するなどして楽しんでいる。近所への散歩の際に農家の方から頂いた苗も育てており、利用者の張り合いとなっている。蕎麦打ちをしたり、ドライブに出かけるなど、多様な楽しみごとを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々散歩に出かけたり、希望に応じて近くにある温泉に出かけるなど、外出を支援している。また、近隣の福祉センターに出かけて催し物に参加したり、同敷地内のケアハウスを訪問してレクリエーションを楽しむなど、日常的に戸外へ出かけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修で身体拘束を行わないことの重要性について学んでいる。身体拘束とはどういったことかを実際に職員が体験しながら、その弊害に対して理解を深めている。また、管理者は日頃から、利用者の行動を制限するような言葉がけにも注意し、職員への指導を行なっている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは日中は鍵をかけておらず、自由に出入りすることができる。玄関ドアを開けると音が鳴るようにして出入りを察知しているが、生活の邪魔になるような音ではない。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホームで事故等が発生した場合は、報告に基づいて職員間で対応策を検討し、再発防止に努めている。対応策・改善策については、その評価も行なわれている。法人内でも医療安全対策委員会が組織されており、ひやりハット事例と、事故事例を分析して原因を追究し、改善に取り組む体制が整備されている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人として心肺蘇生法の研修が開催されており、ホームの全職員が受講している。誤嚥など想定される事故の対応も職員間で確認し合い、初期対応訓練を定期的に行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	併設施設の協力を得て、利用者職員が月1回定期的に災害時対応の訓練を行なっている。緊急時には併設施設の職員から応援を得られる体制になっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスの取れた食事が提供されている。管理者自身も栄養士の資格を有しており、利用者の身体状況や、食事・水分摂取の状況から必要な対応を個別に検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は天井が高く、窓からは田園風景が見渡せ、ゆったりとした雰囲気である。採光も良く適度な明るさが確保されており、また、気になる臭いや空気のコもりもない。掲示物や写真などで、親しみやすい雰囲気づくりもなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた身の回り品が持ち込まれたり、写真や本人の手作り作品を飾るなど、その人の個性や好みを踏まえた居室づくりがされている。各居室のスペースは広く、車椅子でもスムーズに移動することができ、また、トイレも設置されている。</p>		